

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-03-600
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和40年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民			広報や市公式ホームページ、ポスターなどで参加者を募集し各行事を開催 [行事内容] いきいきニュースポーツ広場：スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験と体力測定。 スポーツレクリエーション講習会：4回開催のレクリエーションの提供 法や、楽しさを学ぶ学習会。 生涯スポーツセミナー：スポーツを様々な視点で接近・楽しむ講習会。 筑紫野市民水泳大会：小学生から大人まで水泳に親しむ大会。 スポレクフェスタ：農業者トレーニングセンター等で、スポーツの体験 会やベタタンク大会を実施 筑紫野市駅伝大会：総合公園折返しコースを駅伝（チーム）で競う大会 筑紫野市応援デー（アビスパ・ライジング）：市民に「みるスポーツ」 を推進し、プロの試合観戦で改めてスポーツの良さを実感してもらう。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			さまざまな人々がふれあい、交流を深め、気軽に「する」「みる」「つどい」「つなぐ」ことが出来るようなスポーツ活動の場を提供する。						
さまざまな人々がふれあい、交流を深め、気軽に「する」「みる」「つどい」「つなぐ」ことが出来るようなスポーツ活動の場を提供する。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
各種事業、教室の参加者数		人	実績	実績	当初	要求	計画	計画	
			3,157	3,436	4,000	4,000			4,000
5. コスト									
事業費		計	千円	1,929	2,358	3,282	5,289		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	1,929	2,358	3,282	5,289				
正職員人工数		人工	0.4	0.5	0.5				
正職員人件費		千円	3,126	4,012	4,191				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	5,055	6,370	7,473	5,289			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		生涯スポーツセミナーは、コロナ感染防止対策を契機に、会場と併せWEB（オンライン）を実施するなど、市民ニーズに合わせることで参加者数の増加に務めている。令和6年度は新たに、アビスパ福岡やライジングゼファーフクオカとの「筑紫野市応援デー」を実施し、「みるスポーツ」を推進できたことに加え、前年度に比べ参加者が300人増加できた。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	スポーツ推進計画に記載しているように、当該事業の意味合いは大きい。参加者ニーズに合わせるイベントとスポーツ推進に必要なイベントとのバランスをとっていく必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性			維持	見直し	廃止	事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
参加者数は徐々に増加しているが、目標値からかなり外れている。各種事業・教室に尽力いただいている団体とともに、参加者数の増加に向けた内容の検討を行う									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
備考・特記事項 or 進行管理欄			令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種事業・教室開催事業の中止等により、利用者数が減少した。						
既存のスポーツは、スポーツ本来の楽しさを感じる技術に達するまで時間を要し、体力も必要となる種目が多い。こうしたことから、世代を問わずだれもが気軽に楽しめるスポーツの普及を地域に広める必要がある。									